

このひとをじっくり見ますか？

第24回

生沢クノ いくさわ くの (元治元年～昭和20年)



(個人蔵)

生沢クノは、元治元年(一八六四)年、榛沢郡深谷宿(現深谷市仲町)に生まれました。医師であった父が働く姿を間近に見て育ったクノは、女性の病苦を癒やしたいという思いから、医師を志すようになります。家族はその前途の困難を思い、考え直すように話をしますが、クノの固い決意に負け、上京を許可します。

明治十(一八七七年)、高い志を持ち、十三歳で上京したクノでしたが、当時は女性が医師になることが認められていなかったため、大変な苦勞を強いられます。まず

問題になったのは、女性が医学を学べる場所がなかったことでした。そのため、まず女子教育に力を注いでいた松本万年のもとで学び、その後、病院の見習生や産婦人科医院での研さんを経て、ようやく明治十五(一八八〇年)に私立東亜医学学校に特別に入学が許可されました。しかし、学校は女人禁制だったため、クノは断髪・男装で毎日別室に出席しました。

在学中にクノは、女性に医師の門戸を開くことを求め、東京府と埼玉県に医学試験請願書を提出します。いずれも前例がないという理由で却下されましたが、クノらの再三の働きかけにより、受験が正式に認められ、明治十七(一八八四年)九月に、女性を対象にした第一回の医術開業前期国家試験が実施されました。

クノは過勞のあまり体調をくずし、不運にも第一回の試験を受験



▲クノが明治16年9月に埼玉県令吉田清秀へ提出した「医学試験請願書」の写し(個人所有)

できせんでしたが、明治十八(一八八五年)に前期試験、翌年には後期試験に合格し、二十三歳で日本で一番目の女医の資格を得ました。医師となったクノは、寄居で父の助手として、また、児玉の分院では出張診療を行いました。

昭和七(一九三二)年に六十八歳で退職し、深谷に戻った後は、妹の家寿の家族に囲まれて平穩に過ごし、昭和二十(一九四五)年六月十八日、八十一歳の長寿を全うしました。

用語の手引き

- 『東亜医学学校』
明治時代に全国で40以上存在した、医術開業試験に合格するための受験予備校の1つ。留学前の森鷗外も講師を務めていた。
- 『埼玉県令』
現在の埼玉県知事

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。

市長の深い話

深谷市長 小島 進

ふるさと納税の返礼品で深谷の魅力発信

ふるさと納税は全国的な広がりを見せ、さまざまな返礼品が話題になっています。

私は、ふるさと納税の返礼品とは、地域の魅力発信や地域産業振興の1つの手段であると考えています。そこで、市では返礼品の魅力を高めるため、返礼品への参加事業者を対象に「お礼品魅力向上プログラム」を実施しています。

この取り組みでは、地域資源を掘り起こし、それを生かす商品開発力を伸ばしていきます。また、事業者間の連携を促すことなどを目的として、魅力ある新たな返礼品を考へてきました。

その結果、約20の事業者が連携し、深谷の魅力が詰まった返礼品が多数生まれました。深谷自慢の食材をふんだんに使った鍋料理のセットや、井料理のセットなどを返礼品として、全国にお届けしています。

また、深谷市のふるさと納税を紹介するために「ふるさとチヨイス」というサイトに登録しています。このサイトの利用者はとても多いので、市のPRとして、より多くのかたに、深谷市を知っていただく、良い機会となっています。

ぜひ、皆さんも一度、「ふるさとチヨイス」の深谷市のページをご覧ください。まだ知らない深谷の魅力を発見してみたいかがてしようか？

こうしたさまざまな取り組みの結果、平成29年1月末現在で、2億7千万円を超える寄付をいただきました。これは昨年度の実績1億7千万円を大きく上回るものです。

ありがとうの手紙



優秀賞
一般の部
主人へ

常盤町 窪川 舞 さん

いつも朝早く会社へ行き、夜遅くまで、お仕事お疲れ様です。疲れた顔もほとんど見たことがない位頑張りやで、そんなに色々頑張っていて体を壊してしまうのではないかと、家族が心配するほど、地区の役員の仕事や子供の行事などに積極的に参加してくれていますね。

私が小さな頃から慣れ親しんだ深谷を、遠くから来たあなたが「すごく人があたたかくて素敵な場所」と言ってくれますね。あなたのあたたかさにも支えてもらっています。ありがとうございます。



優秀賞
一般の部
林 百合子さんへ

東方町 菅野啓子 さん

幡羅小の児童の登下校の安全と成長を見守って頂きありがとうございます。

雨の日も風の日も欠かさず、一人一人に声をかけ「修学旅行はいつ?」「楽しかった?」「勉強になった?」と、行事にも気かけ「林さんと今日、こんな話をしたよ!」次女から、話を聞いたことがきっかけで、長女や長男の時から、林さんが毎日見守って下さっていることを知りました。

三人の子供が通う、十三年間の小学校の通学路には、いつも林さんがいます。心から、ありがとうございます。